

ITC



IV

VOLUME 22

JULY/2004

JAPAN REGION

目 次

Table of Contents

第22回 I T C 日本リージョン年次大会テーマ、リージョン・ I T C テーマ Conference Theme, 2003—2004 Themes	1
日本リージョン会長基調演説 President's Keynote Address	2
I T C ニュースと視点 ITC News and Views	4
第22期日本リージョン年次報告..... The 22nd Japan Region Annual Report	6
日本リージョン会則、常規の修正及び決議 Amendments to Japan Region Bylaws • Standing Rules, and Resolutions	8
次期役員選挙結果報告..... Newly Elected Japan Region Officers	8
スピーチアソンの実施報告..... Speechathon Report	9
I T C のための E メールの方針と手順 Email Policies and Procedures for ITC	10
第22回日本リージョン年次大会 The 22nd Japan Region Annual Conference	12
年次大会報告 Annual Conference Reports	12
スピーチコンテスト Speech Contest	15
教育セッション..... Training Sessions	16
特別プログラム Special Programs	18
表彰 Awards	20
謝辞 Gratitude from Coordinator	21
大会アンケートまとめ Questionnaire Survey	22
ITC Plaza : とっておきエピソード ITC Plaza : Conference Episodes	24
編集オリジナルアンケート集計 Editor's Original Questionnaire	25
チャーター式典・大阪市助役大平氏後日談・編集後記 裏表紙裏	
I T C 日本リージョン声明文・ I T C 宣誓 ... Mission Statement of Japan Region • ITC Pledge	裏表紙



ちっちゃなしあわせでもいっぱい集めれば花束になる

Happiness is making a bouquet from the flowers around you.

—「あなたに贈る英語のことば」より—

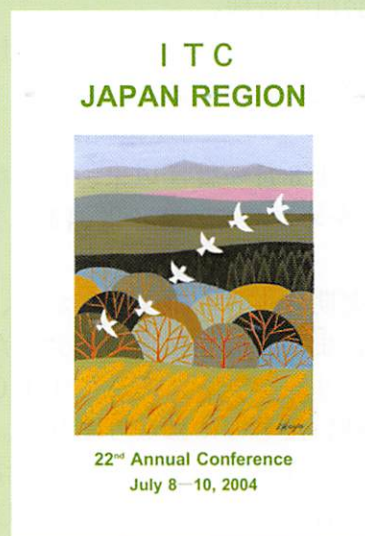
I T C 日本リージョン 第22期年次大会報告号

Japan Region the 22nd Conference

大会テーマ

緑なす大地

A peaceful Verdant Earth



年間テーマ

2003-2004 Japan Region Theme

輝ける未来をめざして

Towards Brilliant Future

I T C テーマ

Dream-Believe-Dare-Do-Together

半年間テーマ

Dream

スローガン

Dare to Share the Dream

今こそ 夢を共にしましょう

基 調 演 説

お客様、会員の皆様。
今大会に、こんなに大勢の皆様にご出席戴き、
役員一同感激致しております。



I T C日本リージョン会長 山崎 眞知

私共は、昨年8月の就任以来、微力ながらも役員会はじめ、各委員会、事務局が一致団結し、「輝ける未来をめざして」1年間邁進して参りました。

2年前、次期会長の役職ついてから、I T Cの将来を考えると、会員増強にはどうすれば効果があるのか、またせめて私達が入会した頃の年頃の方々に、どうすればアピールできるかを考え続けました。リージョン、そしてI T Cの未来のためには、できるだけ若い世代の方にもご入会戴かないと輝いたものにはなりません。そのためには、I T Cで学んだことを社会で活用出来ることはないだろうか。とひたすら考えておりました。勿論頭で考えるだけでなく、いろんな方にもお知恵を拝借すべくお尋ねしたり致しておりました。

今期に入りましたら、私の意図を汲んで下さる方が現れ、まず京都地区のライオンズクラブと接触することができました。ライオンズクラブの会報に2ページにわたりI T Cのことを掲載して戴くことができました。とても大勢の皆様の目に触れる事ができたと感謝致しております。

秋には、奈良の短期大学で2コマの授業をさせて戴き、これも大成功でした。これに携わって下さった方々と共に大きな充実感を味わうことが出来ました。この充実感を、今後も少しでも広い分野でより多くの方に味わって戴きたいと存じます。このようにほんの一步に過ぎませんが、「社会との無理のない良い関わり」という短期目標を叶えさせて戴きました。

組織運営研究委員会からの提言をもとに、日本リージョンが今必要としていること、あるいはより改善された教育資料などの編纂と、社会との関わりをもつ為の教育研究委員会を今期中に発足させるべく準備いたしております。来期前進できますよう、ご協力の程お願い申し上げます。ほかに、リージョン分割、カウンスルの再編成、多様化したクラブ形態の研究も精力的に行って戴きましたが、これらはまだまだ研究の余地があるという結論に達しております。

もう一つの短期目標であります「クラブの充実（質の向上）」も際立ってとはまいませんでしたが、それでも各クラブが確実に充実していていることは感じられました。これも今後も引き続きご努力戴けるものと期待致しております。

長期目標の一つにあります「伝達方法の合理化」ですが、まだまだ過渡期の段階であると思えます。しかし急速な進歩にも拘わりませず、どんどん対応して下さる方が増え、さすがI T C会員と感謝致しております。とは申しましてもこれも無理のないようにして参りたいものでございます。

4月には突然ウイルナ・ウイルキンソン国際会長の来日があり、神戸にご滞在ということもあり、直接お話を伺うことが出来ました。エネルギーで、質問に対しきちんとお答え戴けたことは、国際役員に対する信頼にも大きく繋がったと存じます。今現在本部が揺れ動いておりますが、これからの期待の光を見出すことが出来たように存知しました。

今、世界に目を向けたとき、不穏な地域がいくつかあり、日々暗いニュースが伝えられて参ります。大きな争い事がありますと、大地は荒廃し人々の心も荒廃してしまいます。大地が緑で覆われるということは、平和でなければなりません。地球上の全てに平和が訪れますようにとの願いをこめて、大会テーマを「緑なす大地」と致しました。平和であるからこそ、このように豊かな気持ちで、年次大会が開催できます。この幸せに心からの感謝を致したいと存じます。

何事も一人ではなしえない。多くの方々のご協力があったからこそと言うことは、重々承知致しておりましたが、この1年間で今までの思いより何倍もの実感を致しました。役員をはじめ、カウンセル、クラブと会員全員の皆様の支えとご協力があったからこそ、無事に本日を迎えることが出来ましたことを、重ねて御礼申し上げます。そして、この3日間のご協力による大会の成功をお願い致し、基調演説とさせて戴きます。

Keynote Address

Distinguished Guests and Members,

We are very happy to find such a large attendance at this Region Conference. Since last August, we have made the utmost effort "Towards Brilliant Future" in unison.

When I took office as President-Elect, I thought about increasing membership. Unless younger generations join ITC, the future of the Region and ITC will not be a brilliant one. So, I earnestly thought about how to make full use of ITC in society.

This term, we were able to get in touch with the "Lions Club in Kyoto". They gave 2 pages of their magazine to the introduction of ITC. Thanks to them, we had this big chance for publicity.

In the autumn, we gave 2 sets of the lectures to the students of a junior college in Nara. Thus, one of the two short-term objectives, "Reasonable and Good Relationship with Society" was realized.

We are preparing for setting up a "Study of Education Committee". At this committee, subjects such as what is necessary for Japan Region now, compilation of improved education materials, and how to form relationships with society will be discussed. Concerning division of the Region, reorganization of the Council, and study of diversified forms of club, the Study of Organization Management Committee will continue to study.

Concerning another short-term objective "Improvement in Quality of Club", I was able to realize that each club was improving not strikingly but steadily. I hope you will make every effort to continue.

One of the long-term objectives, "Rationalization of Means of Transmission", is still in transition. I would like it to be practiced carefully.

In April, ITC International President visited Japan. We had a chance to talk with her directly. Her sincere attitude led to our great confidence in the International Board Members.

Today, the international picture is unsettled, and unhappy news reaches our ears every day. So, I have chosen as the Conference theme "A Peaceful Verdant Earth" hoping the earth will be green and full of peace.

With the strong support and cooperation of all the members, I have reached the opening day today. I hope for your further cooperation for the success of this Conference. Thank you very much.



ITCニュースと見解

News and Views from ITC

公式訪問者 泉 和子

非常に思い切った決定と改革が前役員会により実行され、又会員のお力添えにもよって、私達は危機を脱し、本当に新しいITCを再出発したことをここにご報告できますことを大変嬉しく思います。今10ヶ月が経過し、会員数は戻り、継続会員4426名、終身会員385名、無所属会員1名、総会員数5091名、リージョンの数20、クラブ数426クラブが、2004年6月現在の実態です。2003年のダーバンでの世界大会において、私達は会員に夢を見、それを信じ、思い切って行動をするように呼びかけてきました。役員会はその夢を実現させる第一歩として、今期、一つずつ実行を始めました。そして今、その実状をここにご報告申し上げます。

私達は、ITCを再生することを約束いたしました。(Regenerate) 新会員獲得計画を確実に実行し、新入会員の継続会員に対するパーセンテージを10%と言う結果を出しました。

私達は、ITCを再組織化すると約束いたしました。(Reorganize) 高額のコストがかかるアナハイムの事務所を閉じて今期より会員サービスの管理部門をニュージーランドにおき、そこでIMS (International Management Services) が、ビジネス部門を担当しています。

又、20の全リージョンに置かれたCLO (Communication Liaison Officer) と会員の協力により、ほぼ完璧な会員データベースが出来上がり、全会員の姿がはっきりと書面の中に見えるよう、再生、再組織化をしました。このCLOのシステムは、効率的で効果的な360度のコミュニケーションシステムとしてうまく機能を始め、着実に前進しております。

FTB (From the Boardroom) は、何が起きているかについて会員に最新の情報を知らせ、クラブの運営を効率良くしかも簡単に出来るように必要なあらゆる情報を提供しています。

PREMニュースレターは、会員獲得計画に、その効力を発しています。

ITCのホームページは、マーケティング関連記事、トレーニングセッション、最新版及び改訂版教育特集を掲載し、最近では、会員が相互に自由にインターネットに付いての疑問を話し合えるテクトークページなどを常備しています。有益な、教育的なそして豊かな収蔵庫であると同時に、主要な情報の源になっているホームページを是非ご活用下さい。

私達は、ITCを蘇らせることを約束いたしました。(Revitalise) 古い教育特集は全て書き直されつつあることも今期の革新的な変化の一つです。これらは順次、定期的にホームページに掲載します。

次に、私達は、ITCを再考すると約束いたしました。(Re-think) コミュニケーターのコストをなんとか削減し、購読申込みの形での方法を実行してきましたが、残念なことに今期の購読申込み量では2版のうち1版しか賄えませんでした。しかし、私たちは約束を履行し合計2版出

版しました。会則には私たちは年2回出版すると明記されておりますが、来期は資金が十分あり、それを使えるという会員からの確約（即ち購読申込み）なしには会則どおりに実行することはできません。少ない会員しか購読していない会誌のために、一般予算から資金を支出することはできませんし、いたしません。すでにFTBという情報を得られるニュースレターがあります。PREM ニュースレターもあり、有益な教育特集を会員に提供するホームページもあることを考慮に入れて、会員はコミュニケーターの問題を良く考えて頂きたいと思います。とりあえず、来期のコミュニケーター2版分の購読料は現在収集されつつありますが、会誌の将来が決定するまで会誌資金として保管いたします。

もう一つ再考しなければならなかったことは、基金の件です。私達は赤字無しで自信を持って将来を見ることができ、このことはついに今私達は収入に見合った活動ができるようになったことを意味します。しかし、必要不可欠なもののためには予算は組めますが、余分なことのためには殆ど経費が無いという現実を認識しなければなりません。そこで、何かをするためには、各レベルで資金集めをしなければならないのです。その資金集めの方法として、基金をスポンサー委員会（Sponsorship）と会費肩代わり制度（Adoption Option）とIt\$ for ITC（ITC基金）に区分しました。このIt\$ for ITCに対して、日本リージョンからは先日多額のご寄付を頂きましたことに深く感謝しています。国際役員会から厚くお礼を申し上げますと共に、国際会長より日本リージョン役員会へお礼状とその使用目的を示した書簡をお預かりしてまいりました。

私達は、ITCを書き直すことを約束いたしました。パワートークITCを作成し、クラブのプログラムとして利用して頂きたく、お勧めします。最初の試験と認証は2005年7月ボルティモアで開催されるITC世界大会で行われます。

ライティングコンテスト規則とスピーチコンテスト規則は来期初旬に書き換えられます。

マスターマニュアルを書き換えています。日本リージョンからIt\$ for ITCに頂いたご寄付を、このマスターマニュアルの書き換えの費用の一部に使わせて頂きます。

ここまでの、私達が約束した、再生と再組織化とITCを蘇らせるために実行した幾つかの手段の一部のご報告です。

10月29日から31日までロンドンにおいて開催される ITC President's Training Weekend は著名な有名人をワークショップリーダーに集めた有益な会合です。又、国際会長の住まいする古い伝統的なイギリスの町を訪ねるツアーなど、盛り沢山のおもてなしを用意しております。是非お出かけください。そして、2005年7月23日から27日までのアメリカ、ボルティモアでの世界大会へのお誘いは、今後順次お知らせしてまいります。

私達は、外見上途切れなく、この期の一年目から2年目へと現在移行中であり、通年4回の出席役員会と月一回のCyber会議を通して、世界6カ国に点在する役員たちは、ITC進展のために、皆様のお役に立つよう、懸命の努力を続けてまいり所存です。

以上

第22期 ITC日本リージョン年次報告

2003-2004年

日本リージョン書記 南部 紀代美

第22期リージョン役員会は、日本リージョン声明文「ITC日本リージョンの使命は、ITCの目的とするコミュニケーション技術、組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた社会人を養成し社会に貢献することにある。」を継承し、会則・常規及び役員会方針に基づき、山崎眞知会長のテーマ「輝ける未来をめざして」を実践するために、以下の活動を行った。

長期目標

- ・伝達方法の合理化
- ・組織運営研究
- ・堅実な増設
- ・会員の増強

短期目標

- ・社会との無理のない良い関わり
- ・クラブの充実(質の向上)

1. クラブ数・会員状況

- ① 日本リージョンは、今期8カウンスル、88クラブ、会員数1,733名（内、重複会員33名）でスタートした。
6月20日現在日本リージョンは クラブ数89クラブ、会員数1836名（内、重複会員57名）である。

2. 研修会報告

- ① CMTカウンスル運営研修会について
 - ・第1回は2003年11月5日京都タワーホテルにおいて2時間にわたり、12部門111名が出席して開催された。
 - ・第2回は2004年7月8日リーガロイヤルホテルにおいて1時間45分にわたり、13部門115名が出席して開催した。
- ② TPP (Training Power Pack) について
 - ・TPPは2004年7月8日リーガロイヤルホテルにおいて1時間15分にわたり、公式訪問者 泉 和子ディビジョンIV副会長により行なわれた。
 - ・RMT (Region Management Training) について
新旧リージョン役員対象の今大会の評価が2004年7月10日、リーガロイヤルホテルにおいて、2時間にわたり公式訪問者によって行われる予定である。

3. 主な活動

- ① 役員会は定足数のもと、現在まで9回大阪、1回京都で開催された。
通信役員会は、14回行われた。

- ② 8 カウンシルへは2003年10月より11月にかけて、6名の役員が公式訪問した。
- ③ リージョンメールは、会長の指示により、事務局の協力のもと、E-mail送信により、4回配布すると同時にリージョンウェブサイトに掲載された。
- ④ リージョンウェブサイトには、今期から名称の変わった From the Board Room の翻訳、各レベル会則、役員会便りや会員状況を掲載し、常にリージョンへの理解を深めるよう努力した。

4. その他の報告事項

- ① 奈良白鳳短期大学において160分の公開講座を会員の協力のもと開催。また京都ライオンズクラブへの貢献の可能性を視野に入れた情報交換を行い、社会との無理のない良い関わりを実践した。
- ② スピーチアソンについて、その実施への足掛かりを目指して、各クラブに日本リージョン独自の試案を提示し、プログラムに取り入れるよう、要請した。
- ③ 組織運営研究委員会の提言を入れて今後の日本リージョンを考え、「教育研究委員会」の立ち上げを計画、広く人材を求めるため、会員の推薦を募った。
- ④ リージョン会報は、年4回発行予定で、これまでに3回発行し全会員に配布された。
- ⑤ Power Talk ITC は第1回が翻訳され、製本されて全クラブに1冊ずつ配布された。今後新たに項目が追加された場合、順次、翻訳し各クラブに配付予定である。
- ⑥ 会計監査：2003年3月2日に中間監査を行った。
- ⑦ 増 設：クリスタル神戸クラブが増設された。
- ⑧ 2004年7月8日9日10日の3日間、第22回年次大会を大阪国際会議場ならびリーガロイヤルホテルにおいて「緑なす大地」のテーマのもと開催中である。

第22期日本リージョン役員会は、山崎眞知会長のもと、テーマ「輝ける未来をめざして」を意識し、今後多くの変革と多様化が必要とされるカウンシル・クラブの形態を鑑み、その未来の輝きを信じて、前向きな姿勢で任務を遂行した。



第22期日本リージョン役員

日本リージョン会則・常規修正

Amendments to Japan Region Bylaws and Standing Rules

会則・決議委員長 若林裕子

第22回日本リージョン大会に提出された日本リージョン会則の修正案2件・常規修正案4件は審議され、修正案1は修正の後、修正案2, 3, 4, 5, 6は提出された通り採択されました。従って修正された会則・常規は下記のようになり、2004年8月1日から有効となります。

会則 第5条 選挙及び役員の仕事 B項 資格：

1.すべての役員は

- c. 所属クラブから指名を受けた者であること。
無所属会員の場合はリージョン内の1つのクラブから指名されること。

会則 第5条 選挙及び役員の仕事 B項 資格：

3. 次期会長は

- c. リージョン選出役員、リージョン任命役員、リージョン常任委員会の委員長のいずれかを最低1期務めた経験のあること。

常規 2. 年会費：

- a. 年会費は会員1名につき4,000円とする。2つ以上のクラブに所属する重複会員は、1名分のリージョン年会費を最初に入会したクラブを通じて納める。

常規 8. ITC日本リージョン事務局 (ITC JAPAN REGION OFFICE)：

- c. 事務局の各部は事務局長の管理の下で、各部長の指示により次の業務を行う。

1) コンピューター部

(1) 日本リージョンウェブサイトの管理をする。

(2) リージョンメールその他のメール発信、受信の管理をする。

出版部以下の番号を、2) 3) 4) 5) と順次繰り下げる。

常規 8. ITC日本リージョン事務局 (ITC JAPAN REGION OFFICE)：

- e. 事務局長 (OFFICE MANAGER) 及びコンピューター、経理、出版、資料、翻訳の部長はリージョン役員会の承認を得て会長により任命される。任期は1年とする。ただし2年を超えない限り継続して任命されることが出来る。他に事務処理のため事務員を置くことができる。

常規 8. ITC日本リージョン事務局 (ITC JAPAN REGION OFFICE)：

- f. 事務局の部長は、リージョン常任委員長と同格とする。

選挙結果報告

次期リージョン役員

次期会長 西田 富美子 (平安クラブ)
第1副会長 中野 知子 (奈良クラブ)
第2副会長 葛谷 美紀子 (名城クラブ)
書記 原 誠子 (千種クラブ)
会計 井上 保子 (阪神クラブ)

次期指名委員会委員

村上 令子
立花 眞琴
津田 由貴

スピーチアソンの実施報告

日本リージョン第二副会長 大島麗子

国際ITCは、毎年4月12日を「国際ITCの日」と決め、その日に世界各国でITCの組織を自覚し、その広報活動に役立つようにPREMのイベント、スピーチアソンが計画されました。

「スピーチアソン」は、スピーチマラソンの造語です。このスピーチアソンは、ITC会員が一般聴衆の前で、一人約5分のスピーチを2時間世界各国で継続的に行い、これが時差の関係でマラソンのように次々と、時間をバトンタッチされていくもので、ニュージーランドをスタートし、最後はハワイに着くというものです。

日本では、過去2年間不参加でした。今期初めて日本リージョンのPREM活動として実施することに致しましたが、日本での現状では、国際ITCと足並みを揃えるまでには到っていないと考え、今後の足掛かりとして、各クラブに日本リージョン独自の試案、3つのテーマを提示し、4月・5月のプログラムに取り入れるよう要請いたしました。

日本リージョン25クラブより実施報告を受けましたので、実施内容をまとめ報告いたします。

- 1) ITCは、どのようにしたら会員や、これから訓練を受けようとする人たちを惹きつけることができるか？（効果的な発信方法）
 - ・会員が外部から見て信頼され魅力的で、その人のようにになりたい、その人が入会しているITCを覗いてみようと思われるような会員を育成する。
 - ・地域やITC以外の会合に積極的に参加し、ITCでのコミュニケーション技術、会合の運営、儀典など上手に関わっていく。
 - ・マニュアルをもっている会であることを伝え、上手な話し方に大変役立つことを伝える。
 - ・ITCの訓練が社会に受け入れられ認知されるには、具体的な活動で社会と関わっていくことが必要。
- 2) ITCマニュアルで一般社会で役立てることは何か？
 - ・地域、PTA、他団体の会合で会議の進行、プログラムの企画に役立った。
 - ・スピーチの構成が役立ちどんな場所でもスピーチが苦にならなくなった。
 - ・評価訓練をとうして社会的な分析力がついた。
 - ・責任感が養われ、自然に指導力が備わってきた。
- 3) 日本リージョンの組織運営について考えることは何か？
 - ・日本リージョンの改革と簡素化が掲げられているが、実感として感じられない。役員の2年任期とし、継続的な取り組みがほしい。
 - ・教育資料を整理して欲しい。
 - ・リージョンの分割を再検討して欲しい。リージョンが大きすぎて組織、活動がわかりにくく、クラブとのへだたりが大きすぎる。関心が薄れる
 - ・電子的手段（メール）の伝達は便利であるが、もっと会員に行き渡る単純な方法をとってほしい。
 - ・増設活動も会員増強のためであるが、小数クラブが多くなる現状を見ても、もっとクラブ充実に力を注いでほしい。

I T CのためのEメールの方針と手順（I T Cウェブサイト“E”の翻訳転載）

1. あなたのEメールのプログラムとプロバイダー（ISP）、又それらの能力と限界について、できる限り全てを知っておきなさい。あなたのソフトウェアはあなたが気付いていない能力を持っているかもしれません。完璧に使いこなすために知っておくべきことを見つけ出しなさい。Eメールを簡単に使えなくて困っているなら、別のプロバイダーを利用することを考えるか、もっと能力のあるソフトウェアを使いなさい。
2. Eメールを定期的にチェックしなさい。自分のメールアドレスを公表すれば、そのアドレスを定期的な通信のために使っていて、当然Eメールを頻繁にチェックしていると思われる。
3. 定期的にEメールをチェックしていない場合、クラブの書記あるいは役員や、あなたの返信を当てにしている人達に、いつ、どのくらい頻繁にEメールをチェックするかを知らせておきなさい。
4. Eメールを通常の郵便物と同じく秘密（文書）として取り扱いなさい。送信者への影響を考えないで、軽率に転送してはいけません。問題が起こるのを避けるため、転送する前に送信者に許可を得なさい。Eメールは瞬時に世界中に送られてしまうということを知っておきなさい。送信する時、受信者が手紙の重要性に気が付くように「秘密（文書）」という言葉添えることができます。
5. 頻繁にまた定期的にメッセージを処理しなさい。受け取ったEメールに返信しないままにしておく癖をつけないようにしないと、用件への対処が難しくなったり、なすべき必要な処理を忘れてしまったりするかもしれません。返信する最終期限を自分に課しておきなさい。
- 6.1 I T Cの一つのレベルから別のレベルへ送る時、その間のレベルへはコピーを送らなければなりません。どのレベルからでも、I T C会長に直接送られるEメールについては、ディビジョン副会長にコピーを送らなければなりません。他のレベルについても同じで、例えば、クラブ会長からリージョン会長へのメールはカウンスル会長に、又カウンスル会長からディビジョン副会長へのメールはリージョン会長へコピーを送らなければなりません。
- 6.2 レベル間で情報がEメールで送られる時、コミュニケーションリエゾン オフィサー（CLO）へも、コピーを送らなければなりません。
7. メッセージに対する返信に前に来た通信文が含まれるなら、あなたの返信文をページの最初に置きなさい。そうすれば、最初に目について読んでもらえます。
8. “Cc”は、あなたがコピーを送りたい全ての人を表します（CLOのような-6.2参照）。
9. “Bcc”はブラインドコピー（受信者に知らせずに他の人にコピーを送ること）を表します。これを使えば送信文の上部に多数のメールアドレスを記入しないで済みます。しかしもっと重要なことは、コピー送付先のアドレスを公表しないでおけることです。
10. 挨拶の言葉と署名を入れなさい。Eメールは即座に返答ができる仕組みになっていますが、通常郵便の正確さに欠ける場合があるので、あなたがメッセージを送りたい相手をはっきりと確実に示すことが大切です。送信ミスも有り得ます。又メッセージには、あなたの氏名、役職名を記入しておくことが大切です。受信者が、ファーストネーム（名前）やメールアドレスだけで、送信者が誰かと判るとは限らないからです。あなたのファーストネーム（名前）だけで、誰もが、あなたが誰か判るなどと思っははいけません。送ることができるEメールの量は通常郵便の量をはるかに超えます。
11. あなたのメッセージをより明確にするために、短い導入と簡潔な結論を加えなさい。
12. 受信確認メールを返送しなさい。ソフトウェアの中には、この作業を代行するようにセットアップできるものもあります。そうでなければ、すぐに返信できない場合や、返信が要求されてない場合でも、送信者に受け取ったことだけは知らせなさい。メッセージがサイバースペースに入り込んでどこかに行ってしまったのでは（これは実際時々起きている）と思われるかもしれません。あなたがすぐに返信できなければ、送信者にそのことを知らせ、何時頃に返信できるかを伝えておきなさい。
13. メッセージに対して返信する時、自動的に「全員に返信」とするのではなく、むしろそれを本当に必要とする人達にのみ返信しなさい。

14. 大文字で書いてはいけません。大文字は大声で叫んでいるというふうに使われます。
15. メッセージは短く、要領よく、しかしできるだけ明確にしてください。略語などを使いたくなりますが、それは時には通信を混乱させることとなります。
16. 受信者の母国語でない言語で書く時、短い文章やパラグラフを使用しないでください。相手が辞書を使ってメッセージを訳す必要がある場合のために、スペルチェックを注意深くしてください。ジャーゴン（仲間内にだけ通じる専門用語）やスラング（俗語）は避けなさい。
17. 受信希望を明示していない相手に、ダイレクトメール（などのくず郵便物）を定期的を送ってはいけません。誰もがその中のジョークや記事などを読む暇があったり、読みたいと思っ
ていたりするわけではありません。Eメールを仕事で使っている人達は、そのような物について制限していることもあります。法人組織を通じて送られるダイレクトメールは内部の機能をひどく妨害する可能性があります。
18. メッセージを首尾一貫したものにするため、それぞれのポイントをパラグラフに分けなさい。明快さを確実にするために、完全な文章を使用しないでください。
19. Eメールを持っていない人にはプリントアウトしたものを郵送またはファックスしてください。誰か他の人に頼って、伝えて貰おうとしてはいけません。
20. 公式の要請あるいは通知は、Eメールを送った後、さらにプリントアウトした手紙を郵送するべきです。
21. 役員会あるいは委員会がEメールを利用してある議題を討論する時、各メンバーのコメントを役員会あるいは委員会の全メンバーに送らなければいけません。メンバーが実際に集まって行う会合では、それぞれが他のメンバーの意見、見解、関心事を直接聞くことができます。Eメールによる会合においても同じ状況でなければなりません。
22. メールは専門的なものにしておくべきです。個人的なコメントが常に適切で専門的であるとは限らないので、ビジネスメッセージを送信する時には避けるべきです。
- 23.1 添付ファイルとして送信する予定なら、ファイルに名前をつける時に注意してください。受信者が確認しやすい名前をつけなさい。例えば、「記事」とか「報告書」と書いたメールを、ITC会長に送ると、同じような名前の他の多数のメールにまぎれてしまうことは確実です。例えば、「3月の資格認証報告書」というような名前をつけなさい。修正した文書は、そのファイル名の後に番号或は日付を付け加え修正版とわかるようにして送りなさい。
- 23.2 件名欄には、明確な題目（タイトル）を入れなさい。ウイルス対策のためにも、件名欄に、できるだけはっきりしたタイトルを入れ、冒頭に「ITC-」とつけなさい。そうすれば、受信者は一目で、その通信が安全で開いてよいか、あるいはすぐ削除すべきかが判るからです。
24. 添付書類を送る時、フッター（ページの下部）を利用しないでください。そうすれば、プリントがばらばらになっても、順番が直ぐ分かります。フッターには、ページ番号、総ページ数、添付文書のタイトル、そして必要なら、日付を入れなさい。
25. 大きなファイルは、可能ならば、送る前に編集をしないでください。送ろうとしている文書に、写真、図が含まれていたり、大きなスペースをとる書式のものだったりすれば、送りやすいように編集しないでください。別々の文書に分け別々に送ったり、圧縮ファイルにしたりすることもできます。
26. ファイリング。多くのメッセージを「受信トレイ」や「送信済み」のフォルダーに入れたままにしないでください。「題目」別にサブ-フォルダーを作れば、特定のトピックに関する全てのメッセージを簡単、迅速に収めることができます。「送信者」あるいは「宛先」別又は送受信日別の分類は、コンピューターの「表示」をクリックすれば簡単にできます。
27. あなたが知っている送信者からとされるメールを受け取った時、そのアドレスをチェックしないでください。ウイルスを送ってくる人達がよく使うトリックは、あなたが知っているアドレスを真似たり、題目をあなたに関連したものにしたることです。それで、何の疑いも持たずにウイルスに感染したメールや添付書類をやすやすと開けてしまうのです。
28. 必ずウイルス保護対策を行い、常に最新のものに更新しておきなさい。そうすれば、あなたのコンピューターは保護され、他のコンピューターにウイルスを送ってしまう可能性を排除又は最小にできます。

ITC日本リージョン年次大会報告

大会プログラム第一日



CMT（カウンスル運営研修会）：早川次期会長のリードにより、全国から集まった次期カウンスル役員・委員長はしっかりと任務の確認を行うと共に交流の場を持ちました。

TPP 2004（トレーニングパワーバック2004）：ITC公式訪問者の泉和子ディビジョンIV副会長のリードによりOHPを使用して進められ、とても充実した内容で、国際を実感することが出来ました。また、ゲーム感覚も盛り込まれ、ご褒美が出るなどとても活気のある楽しい時間でした。最後は「貴女が明確に心に描き熱意を持って願うこと、心から信じ熱意を持って実行することなら何でも必ず実現するに違いありません。」という言葉で締めくくられました。



観光：第一日目のプログラム終了後は、「大阪ええとこめぐり」として観光委員会が用意したそれぞれの大阪の夜を満喫しました。



観(み)だおれ(ライブステージ)・くだおれ



落語家と行くなにわ探検クルーズ



ハリウッド映画の興奮に飛び込もう

大会プログラム第二日

ブリーフィング：全国からの派遣員が資格確認後集合し、議会法規役員のリードにより開催され、事務会議の進行などについての打ち合わせが行われました。



登録・受付：メインホールの広いホワイエに設えられた受付で登録を終えると個人データの書き込まれた名札とカラフルなバッグが渡され、資格確認、インフォメーション、広報、編集、資料・物品販売などの委員会ブースの前を通り抜けると、オープンなホスピタリティーコーナーに引き寄せられ、朝から美味しいコーヒーを味わうことが出来ました。



開会式：国際会議場のメインホールにおいて、8カウンスル会長に続き89クラブ会長が“世界に一つだけの花”バックにそれぞれのプラカードを手に胸を張って堂々と壇上での入場行進を行った。全員起立して拍手する中を公式訪問者である泉和子ディビジョンIV副会長が入場着席されると、山崎真知会長により第22期日本リージョン年次大会の開会が宣言されました。



事務会議：山崎会長（議長）のきびきびとしたリードにより、派遣員資格確認報告、大会規則及び大会プログラム採択がなされた後、公式訪問者より「News From ITC」としてウィルナ・ウィルキンソン国際会長のメッセージが伝えられました。年次報告、指名委員会、選挙委員会、会則・決議委員会等の報告に続いて、6項目にわたる会則・常規の修正案の審議が行われ、議長のスピーディーな進行により、予定時間内にすべての審議は採決完了し、緊張の中、午前中の事務会議は終了しました。



選挙：事務会議終了後、会場にて選挙が行われ、次期役員は一役職一指名により、候補者名簿通り決定され、次期指名委員会委員の投票集計結果はスピーチコンテスト終了後に報告されました。（詳細8頁掲載）

スピーチコンテスト：午後の部は英語のスピーチコンテストから始まりました。（詳細15頁掲載）

教育セッション：6部門に分かれ、充実したワークショップが得られた。（詳細16, 17頁掲載）

晩餐会：リーガロイヤルホテル3階の光琳の間において、総勢585名という壮大な宴会が催された。それぞれがパーティー用のドレスに身を包み、リージョン役員が立礼する前を通って入場しました。開会后、来賓として太田大阪府知事と關大阪市長それぞれの代理の方、そして泉公式訪問者からそれぞれ個性のお祝辞を戴きました。特に市長代理で、著書により全国的に有名な大阪市助役の大平光代様のスピーチは型破りで、ITCへの入会も表明され大喝采を浴びました。

ご来賓



元リージョン会長



テーブルはととても夏らしいディスプレイがなされ、話題となりました。また、お食事は大会テーマ「緑なす大地」に因んだものが多く用意され、宮川シェフの解説もあり、とても美味しく戴き、より交流を深めることが出来ました。

役員就任式：インストラングオフィサーの泉公式訪問者より、来期役員の就任式を前に、現役員に労いの言葉と共に、記念の品として綺麗な色のハンドソープを手渡されました。退任役員が会員の拍手に送られた後、新役員が壇上に揃い、泉インストラングオフィサーの誘導により一人ずつ来期への抱負を述べられ、順々に舞台右に飾られたキャンドルに火が灯されました。会長の点火前には会員代表もより小さく連なったロウソクの一つに点火され、その火が頂上に到達すると同時に早川会長が一番大きなロウソクに点火、その瞬間会場が暗転し、ロウソクから火花が散るという見事な演出の素晴らしい就任式が行われました。その後早川新会長から、就任挨拶があり、来期のテーマを『社会への発信』と発表されました。



現役員



新役員



会長就任挨拶

エンターテインメント：最後のお楽しみとして、TENGOという、ジプシーバイオリンとジプシーアコーディオンという二人組の素敵な演奏とおしゃべりを心置きなく楽しみました。



TENGO

大会プログラム第三日

事務会議：9時からメインホールにおいて開会され、各役員、常任委員長、任命役員、特別委員長の報告が行われました。審議事項は全て終了していた為、審議予定時間を使用しての質疑応答により、建設的な意見交換が行われました。内容は、「英語クラブ同士の顔合わせが出来る場を作って欲しい」「若い会員がどのようなルートで入会されたか知らせて欲しい」「社会とのつながりなど積極的に会報でしらせてほしい」「ジーニアスクラブの件」などでした。



特別プログラム：10時から第一部「ITCディビジョンIV副会長に聞く」、10時40分からは第二部「福岡政行氏の講演」がメインホールにて開催されました。(詳細18, 19頁掲載)

スピーチコンテスト：午後から各カウンスル代表者8名による、日本語のスピーチコンテストが行われました。(詳細15頁掲載)

表彰：会員委員長の発表により、会長から表彰クラブ・会員が表彰状を受け取りました。(詳細20頁掲載)

最終登録報告：閉会を前に、椎名登録委員長より、今大会登録者及び出席者数の報告がなされました。

	登録者数	出席者数	晩餐会	観光
会 員	890	855	562	Aコース 45 Bコース 55 Cコース 14
一般ゲスト	42	55 (特別ゲストを含む)	23	
合 計	932名	910名	585名	114名

次回大会案内：きれいなハンドベルの音色と共に、次回大会準備委員長の三村敦子さんによって、次回リジョン大会のご案内がありました。

第23回年次大会

日時：2005年6月14日(火)、15日(水)
場所：大津プリンスホテル (滋賀県)



謝 辞：坂口大会準備委員長により、参加者及び関係者各位に向けての謝辞が述べられました。



クロージングソート：太田由紀子さんにより、坂村真民詩集引用の何篇かの詩を読み上げられました。その後、会場2階席より会員有志によるオカリナ演奏により、公式訪問者をお見送り致しました。

閉 会：多数の会員が集まった第22期年次大会は、山崎会長により、盛会のうちに閉会されました。



年次大会アンケート回収：閉会后、プログラム委員会により、今大会のアンケート用紙が回収され集計結果がまとめられました。(詳細22, 23頁掲載)

編集オリジナルアンケート回収及び会報用100字エピソード募集：大会会場ホワイエの編集ブースにおいて、ITCに関するアンケート用紙の配布・回収を行い、集計結果をまとめました。(詳細26頁掲載) また、大会における100字エピソード募集の為の用紙の配布・受付も行い、FAXによる応募と合わせて、会報に掲載しました。(詳細24, 25頁掲載)



スピーチコンテスト

ENGLISH

July 9, 13:20-14:40

大会第二日午後、英語のスピーチコンテストがメインホールにて開催されました。参加者は5カカウンスの代表者で、それぞれ見事なスピーチをご披露くださいました。

Order	Council	Contestant (Club)	Subject	Title	Time
4	No.1	Reiko Wani (Chikusa)	Character	Lifelong learning	7'19"
1	No.2	Hisako Bekku (Matsuyama)	Power	Who's the top dog in your family?	7'18"
5	No.3	Yasuko Kawashima (Amagasaki)	Witness	The Dearest Son	7'28"
2	No.6	Atsuko Takayama (Hokusetsu)	Gift	Sense of Humor	7'38"
3	No.8	Masayo Tanaka (Tsukuba)	Understanding	For the Advancement of Women	7'23"

No.1

Council No.8
田中 雅代
(筑波Club)



No.2

Council No.1
和邇 玲子
(千種Club)



No.3

Council No.6
高山 敦子
(北摂Club)



日本語

7月10日 13:30~15:30

大会第三日午後、日本語のスピーチコンテストがメインホールにて開催されました。参加者は全カウンスの代表者で、それぞれ素敵なスピーチをご披露くださいました。

順番	カウンスル	氏名(クラブ)	論 題	題 目	時間
3	No.1	島 本 佐江子(名 城)	くさり 鎖	きずな 絆	7'22"
4	No.2	森 照 子(御 影)	スローライフ	これから	8'20"
6	No.3	前 川 雅 子(姫 路)	曲がり角	余生を悔いなく	7'21"
8	No.4	西 村 節 子(九 州)	やぶる 破	北緯33度8分、統計130度56分の挑戦	7'20"
1	No.5	石 倉 伊 智(大 阪)	光と影	笑顔	7'13"
5	No.6	大 野 三恵子(京 都)	地 図	話を聞かない男、地図の読めない女	7'17"
2	No.7	西 尾 琉璃子(鳥 取)	窓	天の声 地の声	7'20"
7	No.8	佐 藤 抄(彩 玉)	写 真	毎日が贈り物	7'21"

第1位

カウンスルNo.8
佐藤 抄
(彩玉クラブ)



第2位

カウンスルNo.3
前川 雅子
(姫路クラブ)



第3位

カウンスルNo.7
西尾琉璃子
(鳥取クラブ)



教育セッション



A. 話しことば「あなたの日本語大丈夫？」

沢 昭子（日本語しことば協会理事長）

プログラムリーダー：秦野順子（米子）

タイトルにふさわしく話すことの①基本 ②説明 ③実践 ④検定と充実した4段階のワークショップとなりました。

①まず、言葉を正しく伝えるには発音が基本となり、発音と腹式呼吸の練習、②話すことで大切な敬語も時代と共に変わっていく（尊敬語・謙譲語・丁寧語）を具体的な例を挙げて説明、③実践として「駅」「あなたは動物に例えると何？」の2つのテーマで5人の方が1分間スピーチに挑戦、そして先生の評価がありました。最後は、簡単なリスニングの検定試験をし、皆、学生時代のような真剣な表情となりました。

“ため語”の若者が社会に出て言葉の大切さと難しさを知っていくというお話を伺いながら「わたしの日本語大丈夫？」と改めて自分自身に問うことになった貴重な時間となりました。

（担当プログラム委員 三村敦子）



B. 朗読「木を植えた人」

榊原 忠美（俳優）

プログラムリーダー：伊藤容子（東山）

多くの方の希望に添うべく、講師の御厚意により、2回公演が実現しました。

会場準備は椅子の配置、ライトの当て方、少しの光にも目張りをする細心さにプロの仕事の厳しさを目の当たりにしました。和蠟燭の炎が消され、暗闇の中、朗読が始まりました。深々と心に響く声。光と影の作り出す世界。目、鼻、耳、全ての感覚が研ぎ澄まされ、皆の心が一つになり、木を植えた男の人生が立ち上がりました。質疑応答は短くなりましたが、細い穴に糸を通すように、言葉を選び、発していらっしやると聞き、朗読の厳しさ奥深さを感じました。目を潤ませ、感激して聴いてくださった皆様の心に、確かに141個のどんぐりが蒔かれたと確信しました。

（担当プログラム委員 浅野理恵子）



C. 礼法「こころとかたち～小笠原流礼法をもとに～」

小笠原敬承斎（小笠原流宗家）

プログラムリーダー：西村温子（平安）

先ず「時宜によるべし」つまり時代やTPOに合わせて作法も変えていく必要があり、礼法の基本は、相手を常に気遣う心からというお話から始まりました。

700年受け継がれた小笠原流礼法の基本となるお作法（お辞儀、挨拶、訪問ともてなしの心得、冠婚葬祭、金子包みなど）にはすべて理由があるそうで、それらを実演を交えながら興味深く教えてくださいました。理由がわかるとお作法も覚えやすいものです。会場には、懐紙が2枚配られ、会員も折りながら学びました。

お若くおきれいなお家元に、200名あまりの参加者はびっくりされたのでは？ ご講演中は、こちらも背筋が伸び、つつまじやかになれました！

（担当プログラム委員 中島加寿代）

教育セッション



D. 議事法「活かそう！ 議事法」

柚本加代子（六甲クラブ）

プログラムリーダー：伊賀陽子（六甲）

95名の参加者に2名の飛び入りを加え、1008号会議室は全員の「学びたい」という意欲がみなぎっていました。15:00に始まりテキストに沿って60分間講演があり、内容は「クラブ例会の議長として」「派遣員として」「欠席者の権利保護とは？」でした。講演中にも二、三の質問がありリーダーはその都度きちんと答えられていました。次に10分間のワークショップ「ブランクを作ってみましょう」が9名のグループで行われました。グループリーダーが即座に決められ、3題の動議の例を参考にして各テーブルで活発に行われました。議事法という硬いイメージの会議室には採決の大きな声や笑い声が起り、各テーブルが大変盛り上がり全員楽しく議事法を学べたことに満足されたようでした。その後10分間の各テーブルリーダーの発表、質疑応答。16:30時間いっぱいまで行われ大変有意義なワークショップとなりました。

（担当プログラム委員 土川邦子）



E. 短歌「言葉紡ぎ」

前野寿美子（三田クラブ）

プログラムリーダー：小河フク子（舞子）

時間の都合上、1ヶ月前に参加者全員に短歌を一首用意して参加いただくよう案内したところ、どう詠めばいいかわからないとの多くの問い合わせがあり、当惑しましたが杞憂でありました。

講師の講義のあと、各自用意した短歌を短冊に書き、各テーブルで代表作を選出。代表作を模造紙に書く人、それを前に出てアピールする人、役目を果たした人は実力を発揮しました。各代表作は、ほぼ全員2分の時間内で見事に発表され、講師も一首につき2分、素晴らしい9首に、短歌を身近に感じられる講評で締められました。

構想を練るところから9回、プログラムリーダーと共に綿密な打ち合わせを重ね、講師、テーブルリーダー9人、タイマー2人ほか、三田クラブ挙げての協力を得ました。

（担当プログラム委員 播磨由美子）



F. ワークショップ「私の日本紹介」

菅 紀子（奥村紀子、松山クラブ）

プログラムリーダー：金澤佐恵（サザン・東京セントラル）

常日頃、私たちは「話す」ということに敏感に反応し、上達する為に訓練をおしみません。では、「書く」ということにはどうでしょうか。今回は、「私の日本紹介」というテーマでエッセイを書いてみました。日本語、英語で思い思いのすてきなエッセイをすらすら。その後、発表。ライティングとスピーチの訓練が同時に取得。これを機会にライティングコンテストに挑戦してみたいかがでしょうか。そして最後に、リージョン大会の大切なおもいでの一冊の文集ができあがりました。

（担当プログラム委員 池田美智恵）

特別プログラム



第一部

ITCディビジョンIV副会長に聞く 「ITCの今、そして未来」

モデレーター：武内 浩子（甲南クラブ）

日本リージョン大会の特別プログラムにおいて国際役員の方との対談のモデレーターを務めましたときの内容を報告いたします。

この対談に先立って会員の皆様から質問を集めるために各カウンスルの会長に依頼しました。それらをまとめて私が質問を作成。泉さんにお尋ねしました。

ここ何年かの間ITCの経済状況の悪さを耳にしています。私たちの寄付で建てられたアナハイムの事務所も売られてしまいました。本当にITCは大丈夫なのでしょうか。

ITCの経済状況が悪くなり出したのは、世界的な社会情勢の悪化、会員数の減少、借金をしてまで現状維持の活動を続けたことなどが原因だと思います。しかし、今期の国際会長ウイリナ・ウイリキンソンは会員の会費のみをベースとした予算を立て、もっとも大事であると思う部分には資金を充て、不必要な部分は削減。お金が無ければ他にしたい事業があっても使わない。あとは節約に節約を重ねる。この信念をとおせば少しずつITCの財務状況は良くなっていくでしょう。

余分なお金がないということになると会員のためにやりたいと思う事業があっても出来ないのでは。そこで今期は寄付を集めるために3つの方法を考え、それを実行する委員会の寄付・遺贈委員会を設置しました。

- 1つ目、大きな会社や事業所にスポンサーになってもらうように依頼する。
- 2つ目、会員やクラブからあつめられるお金。
- 3つ目、経済的に困っているクラブを他のクラブが援助するシステム

以上、それぞれをSponsorship, It's \$ for ITC (今までのITC基金)、Adoption Optionと名づけられました。目下、マスターマニュアルを新しく書き換える作業が進められていますが、It's \$ for ITCで集められたお金を充てることになっています。このたび、日本リージョンから多額の寄付を頂いたので、国際役員会はとても感謝しています。

IMSについて教えてください。

ITC Management Services の略。このたびニュージーランドに置いたITCの事務業務専門部門。日本の事務局のようなもの。この事務業務を「メディアマターズ」という会社に業務委託をしている。この会社の社長がITCの会員で、事務所長で、コミュニケーターの編集者です。

世界中に役員が散らばっている国際役員会をどのようにやっているのかとても興味があります。サイバー会議についておしえてください。

恰好よく飛行機にのって国際役員会に出かけるものと思っていたのが、もはや経済上困難だということで、それに代わるものとして、コンピューターを使用したCyber会議に切り替えられました。この会議はマイクとレシーバーとヤフーメッセンジャーというサイト（チャット）の場面を使用して行ないます。それぞれの国の時差があるために時間調整が大変。

日本リージョンでもそのうちに役員会はCyber会議でということが可能になるでしょうね。

日本リージョンに何かアドバイスをいただきたいのですが。

時代に即したリージョン内の機構的な面の改革を早急に進めることをお勧めします。海外のリージョンはいち早く改革を取り入れています。

例えば、役員数を減らす、2年続きの役員会、隔年のリージョン大会など。

特別プログラム

外国人メンバーと日本人メンバーのITCに対する意識の違いを教えてください。

外国人メンバーの役員になるという意識は、日本人とは全く異なります。国際に限って言えば、我こそは国際会長に！という意気込みは今の役員全員が持っています。そのために次々と役職をこなし、着実にその地位を得る努力をしている姿は、一種敬服に値するような気がします。

最後に、もう1年おつとめになる国際役員としての抱負をお聞かせください。

私が日本リージョンから国際役員の扉を叩いて、国際に少しでも日本をアピールできたのではないかと内心少し自信を持っています。言語の問題はありますが、他の役員方が私をかばってくださるうれしいコミュニケーションを大切にしながら、貴重なもう1年を一生懸命務めていきたいと思っています。また、私に良い経験の場を与えてくださった日本リージョンのみなさまに感謝するとともに、国際とリージョンの積極的で、筋道の通った正しい掛け橋になるようにがんばっていく積りです。たくさんの方々に国際の話をお聞かせしたいのでどんどん声をかけてください。

終始ニコニコしながら質問に答えてくださいました。皆様、ぜひ泉さんから直接に国際レベルのお話を聞いてください。



第二部

福岡政行氏の講演

「政治が動く、政治が変わる、時代の潮目を読む」

プログラムリーダー：佐伯 圭子（葵クラブ）

テレビ、ラジオに数多くご出演され、大変親しみがあり、とても解りやすい政治評論で定評のある福岡政行先生のご講演は、参議院選挙の前日という大変に良いタイミングに恵まれ、会員はととても興味深く伺うことができました。

日本の政治、経済から日本の将来まで硬軟とりまぜたお話を説得力のある語り口でされ、聴衆を魅了されました。

日頃の買い物から政治がわかる、経済がわかるとよく言われますが、天下国家の政治になりますと苦手、政治音痴、無関心な私達に、具体的に政治家の名前を挙げての参議院選挙後の政局の動き、予想に、政治を身近な問題に感じる事ができたのはわたくしだけではないと思います。

日本の経済は13億人口の中国のデフレ、インフレで経済が動くようになり、景気の良い企業の勝ち組と負け組にわかれる。"知恵がなければ勝ち抜いていけない時代"がくるとのこと。この言葉は、人としてのあり方を問う言葉に思え、非常に印象的で心に残っております。

日本の将来について、子供たちはバーチャルリアリティーの世界に生きており、大変怖いことである、「人の中は薬」と言われているように、人間は人間の中で笑い、泣き生きていくことが大切あるということに共感を覚えました。

21世紀はボランティアの世紀、心の世紀、21世紀人間回復ルネッサンスの時代であると話され、できる人ができることをする、実行が大切との言葉に、私はまずできることをする気持ちの大切さ、ボランティアのあるべき姿を学びました。

私達は今後何を問題とし、選択すればよいのかをお教えいただき、健康で安全な生活を守るためにも、しっかりと政治に目を向け、勉強する大切さを感じました。また私達一人一人の1票が政治を動かす可能性を再認識し、21世紀には今までとは異なった風を吹かさなければという思いに駆られました。

説得力あふれるお話の一つ、ひとつの言葉に耀きとやさしさを味わうことができた、爽やかで有意義な90分でした。

第22期 表彰クラブ及び会員



日本リージョン第二副会長 大島 麗子

□30名以上クラブ (5クラブ)

(カウンスルNo.)	(クラブ名)
No.4	岡山クラブ
No.5	大阪クラブ
No.6	徳島クラブ
No.7	鳥取クラブ
No.8	東京クラブ



岡山クラブ

帝塚山クラブ



□最多増員クラブ (1クラブ)

(カウンスルNo.)	(クラブ名)	7名
No.5	帝塚山クラブ (会長：山田繁美)	



カウンスルNo.3

□増設したカウンスル (1カウンスル)

(カウンスルNo.)	(増設クラブ名)
No.3 (会長：山田昭乃)	クリスタル神戸クラブ

□満20年継続会員 (36名)

(カウンスルNo.)	(クラブ名)	(会員名)		
No. 1	葵クラブ	河原真治子	中野 伴子	佐伯 圭子
	錦クラブ	川崎 瑤子		
	名城クラブ	浅野理恵子	加藤 裕子	葛谷美紀子
No. 2	阪神クラブ	野村 弘子	富田 範子	山寺 章子
	神戸クラブ	井上 保子		
	六甲クラブ	藤原 栄子		
No. 3	宝塚クラブ	岩瀬 綽子	米良 いく	塩崎真喜子
	関西クラブ	伊賀 陽子	柚本加代子	
	芦屋クラブ	山崎 真知		
No. 4	ひろしまクラブ	岸本 信子		
No. 5	大阪クラブ	山中 恵枝	太田 恵子	重中 祥子
	北大阪クラブ	藤田 令子	藤戸 敬子	
No. 6	京都クラブ	城本 都		
	平安クラブ	三宅小夜子		
	都クラブ	前川 栄子	向井 久恵	
No. 7	奈良クラブ	岩井 敏子		
	枚方クラブ	皆藤 幸子	佐藤 和子	
No. 8	鳥取クラブ	中尾 光子		
	東京クラブ	林 祥子		
	サンデークラブ	八村恵美子		
		関 稔子		
		柴田 ひさ		

□満30年継続会員 (3名)

No. 1	名古屋クラブ	村瀬美與子		
No. 2	神戸クラブ	井上 福子	内海 優	



□満35年継続会員（1名）

阪 神クラブ オバライン エウリン



代理

□満40年継続会員（3名）

No. 2

阪 神クラブ

広瀬 忠子
伊庭 文子
菊池 悦子



□満45年継続会員（2名）

No. 1

名古屋クラブ

新木 昌子
盛田 純子



謝 辞



大会コーディネーター 坂 口 正 子
コ・コーディネーター 中 川 周 子

第22回大会開催地の大阪に総勢910名の参加者をお迎えし、無事に大会を終了することができました。これは一重に皆様の支えと協力があったのことに心から感謝申し上げます。今大会が皆様にとってお互いに啓発し合い、五感に響く実りある大会であったと信じております。

今回、個人情報を入力した「大会パスカード」は便利にご活用して頂けましたでしょうか。また、初めて試みましたが会場前ホワイエでのセルフサービスのティールームは行列ができるほど繁盛し、ホスピタリティー溢れるコミュニケーションプラザとなりました。

熱意とチームワークで取り組みました準備委員会での経験は、ITCにおける最高の訓練の機会を与えてくれました。会員の皆様が多大なエネルギーと貴重な時間を提供し、与えられたお役目を果たそうとする誠実なお仕事振りに触れることができましたことは、大きな成長の糧となり、お互いに信頼し尊重し合うよい自己啓発の機会となりました。ITCでの友情が育まれたことを実感した貴重な一年間であったことに感謝しております。

また、無理難題を沢山お願いいたしました大阪国際会議場とリーガロイヤルホテルのスタッフの皆様には、いつも笑顔で誠意を尽くし対処していただきました。アドバイスも頂戴いたしました。

大会を盛り上げてくださいました会員の皆様、そして大会を支えてくださいました全ての方々に心から感謝申し上げます。

日本リージョ ン年次大会アンケートまとめ

日本リージョ ン第一副会長 大 藪 京 子

第22回年次大会アンケート用紙は180名の方から貴重なご意見を頂き有り難うございました。このアンケートが次の大会をよりよいものにさせる力になることを願い、数の多いご意見を中心にまとめました。

1. ビジネス

良かった点

- ・スムーズに行われ準備の良さが、感じられた。
- ・会長の自然体の話し方に好感が持てた。
- ・質問の時間をもたれ理解が深まった。

改善点

- ・新たに修正案が提出された時に、派遣員がその場で正しく対応できるよう、クラブで事前に教育を行っておくべきである。

2. 教育セッション・プログラム

良かった点

☆特別プログラム

第一部

- ・I T C本部の内情、現状、未来、疑問点がよくわかった。
- ・国際役員が日本人なのでI T Cが身近に感じられた。
- ・インタビュー形式がよかった。
- ・通訳なしで聞けて理解し易かった。

第二部

- ・マスメディアを通してしか聞けない講師の話は期待どおりでとてもよかった。
- ・現代社会の動きがよく理解でき、内容がタイムリー、わかりやすい語り口、論点明確、聞き応えがあった。
- ・有意義、聞いて得をした気持、政治がこれから自分にとって面白くなりそう。

☆各セッション

A. 話しことば

- ・クラブに持ち帰って伝えたいと思う。勉強になった。
- ・リスニングテストがよかった。

B. 朗 読

- ・素晴らしい感動があり、今も余韻が残っている。
- ・心が癒された。

C. 礼 法

- ・作法の意味、理由が聞け、日常生活に役立つ、有益な話しであった。
- ・クラブでもとりあげたい。

D. 議事法

- ・分かり易く、見落とししていることをあらためて教えてもらった。
- ・ワークショップが充実していて、有意義であった。

E. 短 歌

- ・初心者には奥深くすぐにはとりつけないものと思って参加したが、テーブルリーダー指導で、その場で歌を詠み楽しんだ。
- ・各テーブル代表の短歌のアピール、ワークショップリーダーの講評がよかった。
- ・プログラムリーダーのリードが巧みなのでついていけた。

F. エッセイ

- ・各自発表したエッセイが最後に随筆集として綴じられ、頂いたこと。

☆全体

- ・教育セッションはバラエティに富んでいて選ぶのに苦労した。
- ・スムーズに時間どおり進行され、今までにない充実したプログラムであった。

☆今後どのような教育、プログラムを望みますか。

- ・政治・経済の話。
- ・実社会につながる、社会への進出につながるもの。
- ・異なったジャンルのもの（音楽、スポーツ、芸能）
- ・美しい日本語を話すスピーチ。
- ・英語クラブ会員用のワークショップ。

☆教育セッションの型はこのままで良い？

- ・ほとんどがこのままが良い。
- ・会員参加型を多くして欲しい。
- ・専門家のみの教育を望む。
- ・教育部門を（大会2日共）2つ受けたい。
- ・セッションの人数を少なくして欲しい。
- ・実践にまでいけるもの（エッセイ、シナリオ 等）

☆会員と専門家の割合（5：5）（1：9）（2：8）（0：10）（7：3）

☆どのような講師を希望しますか（時の人）（魅力的な専門家）（会員が講師）

☆その他

- ・若い人を呼べるようなもの。
- ・社会に関わりのあるもの。
- ・大会冊子の表紙の絵の紹介文が欲しい。

3. 大会準備

良かった点

- ・会場、ホテルは交通の便がよく、ゆったりと、またきれいで食事もおいしかった。
- ・会場、ホテル間が近くて便利だった。
- ・観光はとても楽しめた。
- ・登録もスムーズであった。大会パスカードはよく工夫され、便利だった。
- ・全ての係りのホスピタリティー。
- ・バンケット、エンターテイメントがとても楽しかった。
- ・運営がてきぱきとできていて気持ちよかった。

改善点

- ・昼食は時間内に早く済ませられるよう、また、後からの人のために種類が少なくなるなどの問題点があるので、バイキングでないほうがよい。
- ・会場内、ホテルの施設の案内をもっとわかりやすく。
- ・登録の回数、時間に便宜性を。
- ・ホテルのチェックインをもっと早く。
- ・パスカードに記載された氏名を工夫してもっと大きく。

スリム化について

- ・スリム化を望む、望まないが同数。
- ・準備に掛ける時間、労力を軽減。
- ・バンケット、会長行進、観光は不要。
- ・委員会報告は書面でよいのでは。
- ・ITC国際のように2年に1度の開催を。
- ・日程を削減。
- ・今回のように公的施設を利用し、経費を抑える。

開催希望地

（京都市内）（京阪神）（九州）（関東）（開催されていないところ）
（交通の便のよいところ）

その他

- ・英語のスピーチコンテストは15分前に扉が閉じられたが、早すぎる。
- ・役職は広くメンバーに募ってほしい。
- ・晩餐会までの時間が短い。

4. 貴方にとって好ましいリージョン大会とは

- ・ITCの友人と再会出来ること。
- ・他カウンスルとの交流の場であること。
- ・魅力的な教育セッションが望ましい。
- ・コンパクトで多数参加出来る大会でありたい。
- ・会員が洗練されたマナーをもって行動することがITCをPRする良い機会である。

5. その他

- ・晩餐会のプログラムが良かった。
- ・スケジュールが詰め込みすぎ もう少しゆとりを。

I T C P l a z a

8日夜「落語家と行くクルーズ」の企画は大変楽しく、新たな知識を得られ大満足でした。乗船すぐのビールの効果、屋根開閉毎に歓声、席に立ち首を360度回転させながら、橋水門の歴史、操作法等旧若き美女軍団の反応に、桂きん太郎師匠一言！

今も強き美女軍団！

[カウンスルNo.1 錦クラブ 社本美穂子]

ホワイエで素敵な絹の作務衣をお召しの方を見かけて思わずお声をかけました。そうしたら、和布の簡単なスカートの作り方を教えて下さいました。嬉しい収穫です。リージョン大会に出席して良かった！

！T Cは出会いの場、ありがとう！

[カウンスルNo.2 三田クラブ 則末美都子]

継続会員40年表彰を受けました。舞台への4段の階段を支えられて登りました。ページの方の優しい笑顔とお言葉は身に沁みました。でも43歳入会チャーターメンバーであったのが、現実の姿は恥ずかしくもあり悔しくもあり。姿勢を正して壇上6,7歩。せめてもの自尊心と、老女のファッション。

[カウンスルNo.2 阪神クラブ 伊庭文子]

リージョンが発足した22年前を思い出しますと、初代会長を務められた新木さん、役員を勤められた菊地さん、広瀬さん方が、年を重ねられて、一回りも二周りも小さくなられ、若い人達にエスコートされていたら、お姿を見て、22年間の重みを感じました。

[カウンスルNo.2 阪神クラブ 野田洵子]

昼食会場で他カウンスル会員と必死の議論をしました。彼女は任務を引き受ける会員がいないから委員会を減じると言うのです。会則決議委員会の任務も役員会が兼務すればよいとう事。ええっ！私達I T C会員は委員会の任務を行なう事で学んできたのではないかしら。

[カウンスルNo.4 ひろしまクラブ 沖田道子]

ワークショップFに参加した。若いリーダーで心配したが、気負わず見事でしたが、運営上エッセイを全員に書いてもらい、発表の時、手を挙げる人が次々あり、さすがI T Cのメンバー。其々が心に訴えるもので、皆が楽しみ、一層盛り上がった。

[カウンスルNo.5 大阪クラブ 辻本初枝]

40年会員として表彰され改めて振り返り感無量でした。40年前の若さと異なり神経痛の為杖についてステージを登ったので、降りたとたんに心配してくださる多くの方に囲まれ、〇〇の薬はよく効くとか、〇〇先生を紹介してあげる等などメンバーの優しい心が伝わり、その友情が涙の出るほど嬉しかった。

[カウンスルNo.2 阪神クラブ 広瀬忠子]

冷たいものありますか、と聞かれたホスピタリティー係りが、ウーロン茶（セルフ）を指差すと、その人は冷たいコーヒーと思ってフレッシュを入れかけた。慌てて止めました。冷たいコーヒーですかと尋ねたとのこと。コミュニケーションって大切ね。

[カウンスルNo.5 千里クラブ 野村悠美]

とっておき エピソード

(順不同)

凛々しいディビジョン副会長と暖かいリージョン役員とパワフル浪花のホステスカウンスルで大変楽しい大会でした。会場に溢れる知性と美貌と笑顔と色とりどりの委員会リボンに目を奪われ、デジカメで写真をパチパチ。横顔、下向き、ピンボケも合わせて、その数500枚。

[カウンスルNo.4 ひろしまクラブ 沖田道子]

受付で5色のキット袋を用意しましたが、白から先になくなるだろうと皆で話していました。ところが真っ先にオレンジやピンクというインパクトの強い色から出ていき、さすがアクティブなITC会員と改めて痛感いたしました。

[カウンスルNo.5 南大阪クラブ 小八木利子]

トイレで手を洗っていたら地方からこられたメンバーの人に、私の受付ワッペンを見て、「今回の受付は本当にスムーズで、とっても良かったワ！」と声を掛けてくださり、本当に良かったと思いました、委員長に報告しておきますとお礼を申しました。

[カウンスルNo.5 南大阪クラブ 福井晴美]

ITC JAPAN REGION 編集オリジナルアンケート集計報告

第22回年次大会におきまして、編集では独自のアンケート調査を実施いたしました。
ITC活動やリージョン大会と会員との関わり方、ひいては会員の日頃の生活、意識まで生き活きと示してくれるようなアンケートを目指して作成致しました。未回答の方も、ここで御自分のお答をチェック、分析してみてください。

※各部門毎に必ず一項目のみお選び下さい。(お詫び：但し2つ選ばれても今回は集計に入っています)

※結果は〔順位—項目—得票数〕として表示してあります。 ※配布数約250枚、回収数117枚

I. 今大会に参加するため出発直前にした一番大切なこと

1位 家族(ペットを含む)のための留守中の配慮	55	3位 留守中の仕事への配慮	13
2位 持ち物の点検	43	3位 花木の水遣り	13
3位 自分の服装(メイクアップを含む)の点検	13	6位 その他(直後の旅行計画、など)	2

II. 今大会から帰宅後まずすること

1位 家事	43	4位 入浴や就寝	14
2位 家族との会話	31	4位 やりかけの仕事	14
3位 持ち帰った書類、荷物の整理	16	6位 その他(メール、留守電のチェック、TV等)	7

III. ITCに入って得たもの

1位 友人	62	3位 新しい人生観	24
2位 コミュニケーション技術	30	5位 新しい生活習慣	14
3位 リーダーシップ	24	6位 その他(自己評価、たくさん!)	3

IV. ITCで身に付いたコミュニケーションやリーダーシップ技術で一番良かったもの

1位 企画運営	40	4位 儀典とホスピタリティ	23
2位 パソコン	38	5位 司会進行	19
3位 人前で堂々と話せる	31	6位 その他(組織作りの力、など)	2

V. ITCに対する満足度

1位 まあまあ	40	4位 大満足	8
2位 かなり	38	5位 少し	4
3位 まだまだ	9		

VI. ITCでの自分の成長に対する満足度

1位 まあまあ	48	4位 少し	19
2位 まだまだ	29	5位 大満足	1
3位 かなり	20		

VII. 今期会報に対する満足度

1位 かなり	50	4位 少し	3
2位 まあまあ	43	5位 まだまだ	1
3位 大満足	16		

VIII. 来期会報に対する希望、アドバイスなど

建設的なご意見やご希望を多くの方からいただきました。残念ながら紙面が限られており掲載できませんが、よきアドバイスとして来期会報編集者に必ず申し送りいたします。ありがとうございました。

クリスタル神戸クラブ認証状授与および役員就任式典ご案内

日 時：2004年9月24日（金）13：30～16：00（受付13：00～）

場 所：神戸クリスタルタワー 3階 クリスタルホール
JR神戸駅徒歩3分

会 費：2千円（当日、クラブでまとめて）

申込先：クリスタル神戸クラブ 書記 川島泰子

〒660-0052 尼崎市七松町1-3-2-2601

TEL、FAX 06-6412-2258（午後1時～）

Eメール chiyonaka@hotmail.com

締 切：8月24日（火）までにクラブでまとめて申込み

大会後日談

年次大会晩餐会に大阪市長代理としてご出席戴き、入会の意志表示をしてくださいました**大阪市助役大平光代様**がカウンスルNo.5 **大阪クラブ**の**名誉会員**になりました。



【編集後記】

♠会報第4号が完成し、ようやく長い1年が終わった感じがいたしますが、とても優秀なスタッフに恵まれ、いいチームワークが持てたと感謝しております。2000名近い会員全員に気に入っていただけるようなものが作れるとは思ってはおりませんが、自分達的には自慢できるだけのものが出来たと満足しております。皆様にも少しでも気に入って戴きましたら幸いです。1年間本当にありがとうございました。成長した木は来年も花を咲かせ実をつけるでしょう。（江藤容子）

♡双葉に始まり実の成るまでの一年間、ITを駆使しての若いスタッフの編集力に私はただオタオタするばかり。でも置いてきぼりにしないで最終ゴールまで引っ張って来て下さり、素敵な一年を経験することができたのは、私にとって大きな思い出の一頁となりました。（堀 容子）

♣エッもう終わり！という思いと、あ～やっと終わった！という思いが入交じり、複雑な心境です。おかげさまで、充実した一年でした。表紙の絵のように、私自身これからも成長したいものです。（松本 敬）

◇たまたま応募原稿の窓口となりましたが、原稿が届いた時の嬉しさは格別です。遠方からでもその地にまで心がつながった気がしました。これこそコミュニケーションと納得！（鎮守康栄）



2003—2004

ITC日本リージョン声明文

Mission Statement of Japan Region

ITC日本リージョンの使命は、ITCの目的とするコミュニケーション技術、組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた社会人を養成し社会に貢献することにある。

The mission of ITC Japan Region is to present the members opportunities for quality training in communication and leadership skills which are the purposes of International Training in Communication and benefit the society by providing mature individuals.

ITC Pledge

ITC 宣誓

We, as member of International Training in Communication, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world.

我々インターナショナル トレーニング イン コミュニケーションのメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。